

黒部川水系流域治水プロジェクト【中間とりまとめ(案)】

～清流されどあばれ川 急流河川黒部川を流域一体で治める～

○ 令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、黒部川水系においても、事前防災対策を進める必要があることから、以下の取り組みを実施していくことで、国管理区間においては、戦後最大の昭和44年洪水と同規模の洪水を安全に流し、流域における浸水被害の軽減を図る。

また、急流河川である黒部川では、侵食による堤防決壊が想定されるため、侵食対策（急流河川対策）も併せて実施していく。

■河川における対策

国の対策内容 急流河川対策（縦工）、河道掘削、堤防整備 等

■流域における対策

- ・利水ダム等6ダムにおける事前放流等の実施、体制構築 等（関係者：国、富山県、関西電力(株)、北陸電力(株)）
- ・霞堤の保全
- ・排水作業準備計画の作成

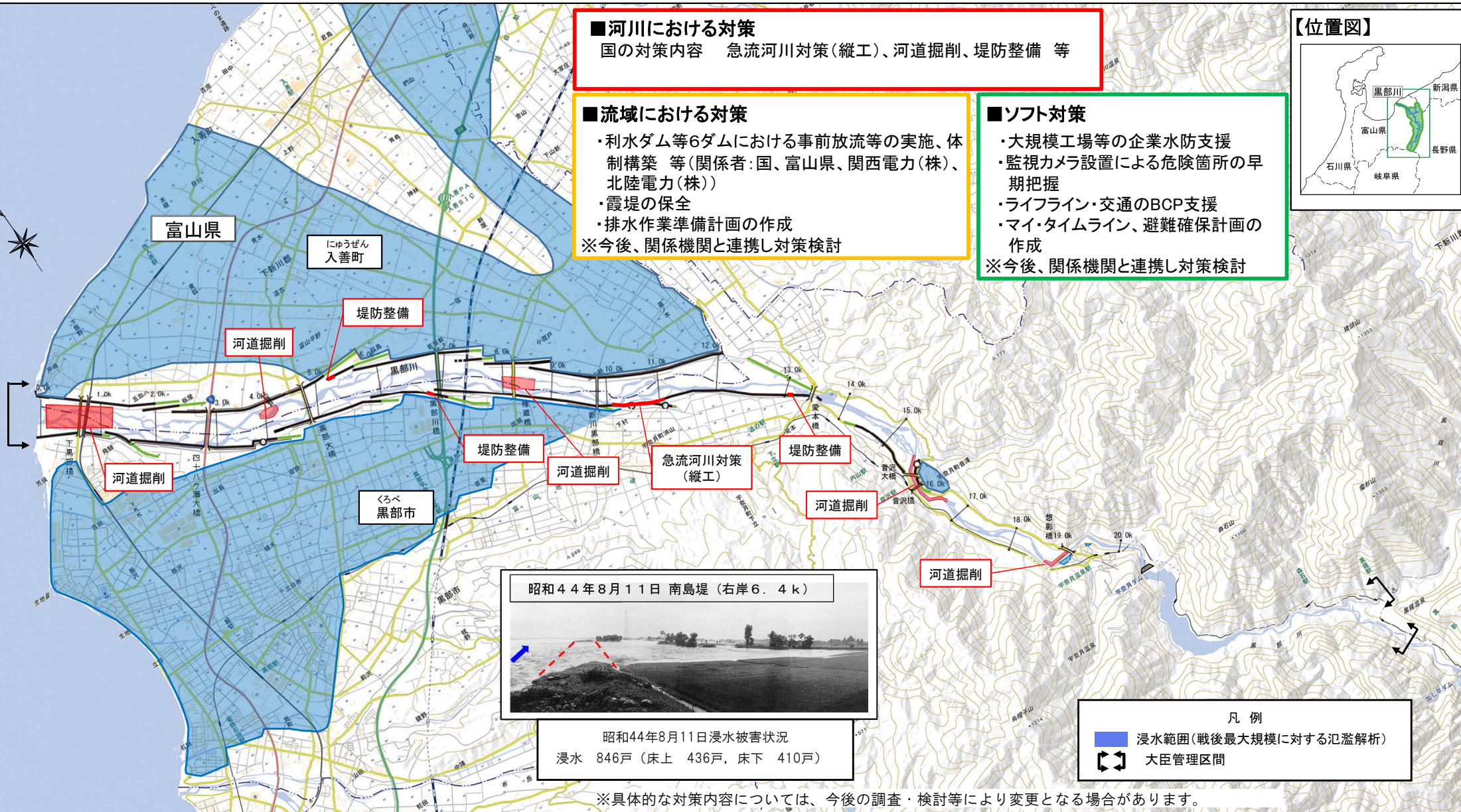
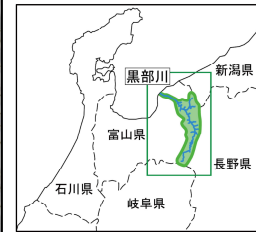
※今後、関係機関と連携し対策検討

■ソフト対策

- ・大規模工場等の企業水防支援
- ・監視カメラ設置による危険箇所の早期把握
- ・ライフライン・交通のBCP支援
- ・マイ・タイムライン、避難確保計画の作成

※今後、関係機関と連携し対策検討

【位置図】



昭和44年8月11日 南島堤(右岸6.4k)

昭和44年8月11日浸水被害状況
 浸水 846戸(床上 436戸, 床下 410戸)

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合があります。